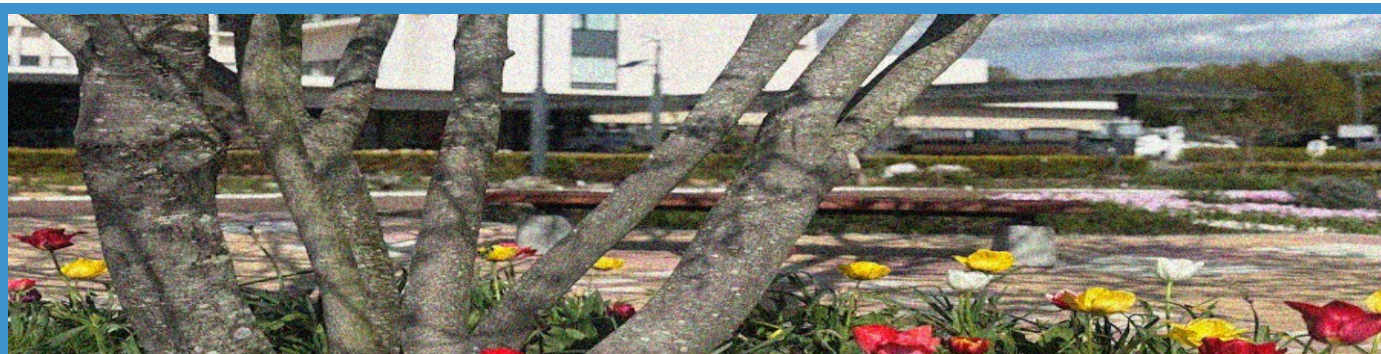


新小山市市民病院ニュースレター

Shin-yama City Hospital News letter

Vol.52



目次 1 副院長挨拶

2 別館建設事業進捗状況

3 職員紹介

4 研修医より先生方へ

5 RRS 研修開催

6 お知らせ



若手医師の減少と専門医の高齢化



副院長・脳神経外科部長 宮脇 貴裕

昨年の忘年会での話です。1年間で土日祝日に手術が最も多かった医師と看護師が発表され、医師は脳神経外科医師（私ではありません）でした。彼も今年 50 歳になりますが、新病院に移転してから 10 年は経ちますので私も彼も 10 歳高齢化し、夜間休日二人でカバーするのは身体的、精神的にも厳しくなってきました。全国に目を向けても脳神経外科医（もっと深刻なのは外科医）の志望者減少は深刻な課題となっています。AI で検索すると 2036 年には約 2,500 人以上の脳神経外科医が不足すると予測されており、若手医師の減少と専門医の高齢化が同時に進行しています。

一方で「直美（ちよび）」の若手医師が増加しているのは報道されている通りです。2 年間の初期研修後専門医を目指す代わりに、高収入が見込める自由診療中心の美容業界は魅力的なのでしょう。ある意味資本主義を医療に持ち込めばアメリカの医療がそうですが、医師はその難易度に比例してビジネスマンと同様高収入を追求するわけで、患者の医療費は鰻登りに上昇し破産も多いようです。若い医師の高収入に価値観を高く置くことに、私個人としては色々考えることはあるものの否定はできませんし、世間は倫理的にはどうなのかと批判的ですが、法律の範囲内での意思決定は問題ないはずです。しかし地域医療の担い手が現実的に危険水域まで落ち込む現状では、初期研修後の選択に関しては法律改正により一定期間の地域医療を義務化するのやむをえないのではと個人的には思います。

今後外科系は若手医師を確保できなければ、今までの診療体制を維持できず地域医療は徐々に衰退してゆくでしょう。救急医療も例外なく弱体化し、たらい回しにされる患者さんが増加するのはすぐ先の未来では普通となるでしょう。脳神経外科学会でも若手医師のリクルートをどうするのかが喫緊の課題となっていますが、社会全体としても外科系医師の待遇や収入に関してタブー視することのない議論を期待します。

さて話は大きく変わりますが、私の趣味は登山です。月の半分は脳外科のオンコールとして小山に縛りつけられますので、休みの時には登山に全力投球しています。世間では無謀と思われる山スキーが楽しい季節です。先日豪雪地として名高い青森県酸ヶ湯温泉にゆき、八甲田山のふわふわのパウダースキーが楽しめるガイドツアーに参加しました。しかし吹雪のためチャンスは 2 回しかありませんでした。山スキーは歴とした登山形態であり、緻密な山行計画とともに、個人的に山岳保険には 2 種類加入しており、遭難に備えてビーコン、プローブ、ショベルはもちろんのこと、ビバークできる準備をして臨むものです。最近報道が多いスキー場のゲレンデ外を装備もなしに滑り、

迷って戻れない外国人なんかとは一緒にされたくないのですが、それを知らない一般の方には自分の親も含めて「危ないからやめたらどうですか」と言われることがあります。

しかしどのようなスポーツでもリスクをどの程度許容できるかで、その内容には線引きがされているはずで、私にとってのワークライフバランスは登山抜きにはあり得ないので、パウダースノーの世界にあと少しどっぷりハマります！！



関東ブロック DMAT 訓練 に参加しました！

本訓練は、1月31日（土）から2月1日（日）にかけて東京都で実施されました。市民病院からは、医師・看護師・業務調整員の5名で構成するチームで参加いたしました。



この訓練は、首都東京で発生した大地震で被災をした都内全域の病院を支援するために、関東一都六県の DMAT 隊員が 1,000 名以上投入されるという大規模な訓練でした。

市民病院 DMAT は、発災直後から院内でミーティングを行い、都内の被災状況を収集しつつ、都庁の動向を注視し、参集拠点までの経路を見定め、どのような支援が必要なのかのシミュレーションを重ねました。翌日は葛飾区内の被災病院を支援するという任務を得て、現地では、被災した職員に寄り添いながら、被災状況の確認・ニーズの確認・関係機関との調整・被災状況下での医療提供に従事してまいりました。

このように、市民病院 DMAT は「支援する力」を付けつつ、支援を通して「受援する力」の涵養にも努めておりますので、益々ご期待下さい。



別館建設事業に着手します！③

工事中



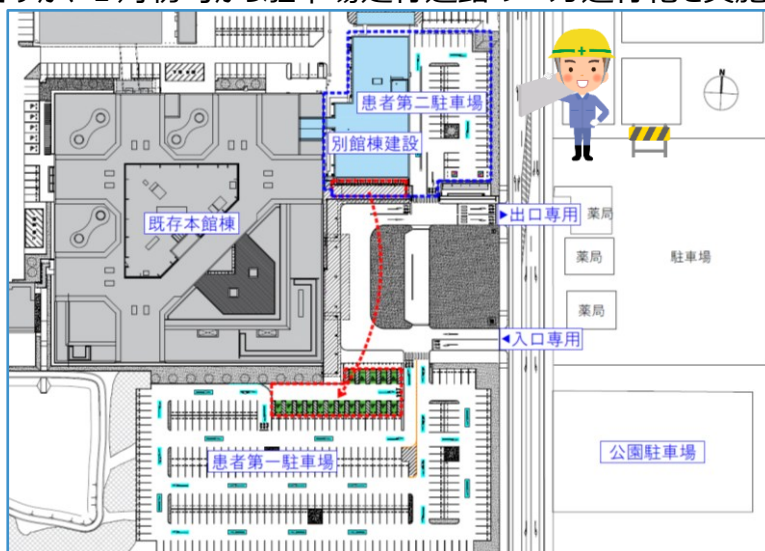
1月初旬より別館の準備工事を開始しました。2月中旬に安全祈願祭を行って、いよいよ本工事の着工です。病院を健全運営しながら確実に工事を遂行してまいります。

今回は、駐車場一方通行化及び車いす駐車場の移動についてお知らせします。

皆様にご不便をおかけしている患者駐車場ですが、1月初旬から駐車場走行通路の一方通行化を実施しました。大きな路面標示を施し、分かりやすく利便性の高い駐車場に変更しています。

また、患者第二駐車場に設置済みの車イス駐車場は、別館建設に先立って、2月10日から患者第一駐車場に移動しました。工事期間中（令和8年2月初旬～令和9年1月下旬まで）は患者第二駐車場が全て工事エリアとなります。患者第一駐車場が満車の際は、病院東側の公園駐車場等をご利用ください。

皆様にご迷惑をおかけしますが、安全第一で進めてまいりますのでご理解ご協力をお願いいたします。





-----職員紹介 (1 月入職医師) (氏名、診療科、ひとこと)

みつた さやか
光田 清佳
呼吸器外科



令和 8 年 1 月から新小山市市民病院 呼吸器外科 に赴任しました 光田 清佳 と申します。
筑波大学を卒業後、自治医科大学 呼吸器外科医局に入局し、診療に従事して参りました。
平成 28 年度からは、健診センター兼務となり、健診・人間ドックにも携わって参りました。
地域の皆様に安心して医療を受けていただけるよう、誠心誠意努めてまいります。小山
地区医師会の先生方のお力添えをいただきながら、小山地区の地域医療の発展に貢献で
きるよう、尽力いたします。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



小山市消防本部・小山警察署・ 新小山市市民病院 3 機関合同訓練を行いました！



小山市消防本部と小山警察署と新小山市市民病院の 3 機関は、地域の皆様の安心と安全のために、厚い協力関係を築いております。

今般、令和 7 年 12 月 19 日に、新小山市市民病院敷地内において合同訓練を行いました。この訓練は、警察による年末年始特別警戒と、消防による年末年始火災特別警戒の啓発を兼ね、病院火災発生時における 3 機関の合同・連携を目的として行いました。

訓練では、病院による火災初期対応及び患者避難誘導、警察による車両誘導及び群衆対応、消防による消火活動及びはしご車救助を、同時進行で行いました。

警察の凛とした対応、消防の迅速な活動、病院の適切な初動、それぞれの機関が持ち分を十分に発揮した、非常に有意義な訓練となりました。

このように、市民病院は医療の提供だけでなく、地域住民の安心と安全のために、警察と消防と連携しておりますので、引き続きご期待ください。



小山市総合防災訓練に DMAT が参加しました！



令和 7 年 12 月 6 日(土)に、小山総合公園で開催された小山市総合防災訓練に、小山地区医師会

様とともに、DMAT が参加しました。

トリアージ訓練においては、浅井医師会長と星野大規模災害対策委員長の迅速かつ的確なご采配のお陰をもちまして、DMAT 隊は大きな混乱なく、トリアージのサポートと、要救護者のケアに専念することが出来ました。この場をお借りして、御礼を申し上げます。

この訓練を通して、新小山市市民病院は災害時においても医療を提供し続ける災害拠点病院であること、DMAT は被災住民に寄り添う存在であること、そして、地域の先生方との災害時における連携が何よりの地域支援であることを、改めて認識することが出来ました。

市民病院は、災害医療の砦として、地域住民の安心と安全のために、小山市、小山地区医師会、警察、消防との連携を密にしておりますので、引き続きご期待ください。



初期臨床研修3期生 研修修了

～ 佐々木先生・高久先生 お疲れ様でした！～

令和6年度に当院の第3期生として採用となりました初期臨床研修医の佐々木先生、高久先生が間もなく研修修了を迎える予定です。第3期生はとても仲が良く、いつもみんなで一緒に切磋琢磨している姿が印象的でした。楽しいこともつらいことも共に共有し、励まし合いながら研修に励んでいる姿は、1年目研修医や他の職員の模範となっていました。

4月からは、新たな目標に向かい当院から巣立っていきます。当院での研修が少しでも今後の人生の糧となれば幸いです。引き続き、地域の先生方のご理解・ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



当院の初期研修制度は令和4年より開始となり、我々はその3期生として入職しました。募集枠が前年度までの2名から4名へと拡充された年ではありましたが、紆余曲折を経て3名での研修スタートとなりました。

私は、最初の2年間は市中病院で多岐にわたる一般的な疾患や多くの救急症例を経験したいと考え、当院での初期研修を選択しました。当院の研修制度はまだ3年目であったことから、指導医の先生方には日々試行錯誤を重ねながら我々と向き合っていただき、多くのご苦勞をお掛けしました。侵襲的手技の監督や私の拙いカルテの修正など、これまで研修医がいなくとも日常の業務がお忙しい中、貴重な時間を割いて丁寧にご指導いただきました。また、研修内容について要望をお伝えしても、先生方や事務方の皆様は柔軟に対応していただき、制度開始から3年目でありながらも充実した研修環境で学ぶことができました。さらに、毎月のように研修診療科が代わる中で、コメディカルの皆様には院内でお会いする度に気にかけていただき、安心して研修に臨むことができました。

地域研修では、寺門医院およびハンディクリニックにて研修させていただきました。両施設とも温かく迎え入れていただき、小山市の地域医療に第一線で携わる貴重な経験を積むことができました。また、地域医療連携の会やポットラックカンファレンスを通じて、小山地区医師会の先生方にも大変お世話になり、地域医療への理解を深めることができました。

そして、共に研修を行った2名の研修医の存在がとても大きな支えでした。多忙な日々の中でも、研修医室で顔を合わせて近況を報告し合う時間は、自然と気持ちが和らぐ大切な時間でした。講習会に加え、食事や病院行事を共にする機会も多く、今後の医師人生においても、2人は心強い仲間であり続けてくれると感じています。



来年度からは皮膚科の専攻医として新たな道を歩みますが、当院での2年間で学んだことを礎に研鑽を積んでまいります。今後も栃木県内で診療を続けますので、ご一緒する機会がございましたら何卒よろしくお願い申し上げます。これまでご指導を賜りましたすべての皆様に、心より御礼申し上げます。（佐々木）

私は小山市で生まれ育ち、県外の大学に進学しました。卒業後に地元に戻り、この新小山市市民病院で初期臨床研修医の3期生として2年間勤務させていただき、このたび無事に研修を修了する運びとなりました。

指導医の先生方は常に温かく、時に厳しくご指導くださり、医師としての基礎を一つひとつ丁寧に教えてくださいました。また、自分が「やってみたい」と思った手技については積極的に意思表示をすれば、患者さんの安全を最優先に配慮したうえで、ほぼ経験させていただくことができました。挑戦する機会を与えていただけたことは、私の大きな自信へと繋がりました。

同期は少人数でしたが、その分結束は強く、分からないことや悩みを率直に共有し、お互いに教え合いながら学ぶことができました。当直明けに症例について議論した時間や、うまくいかなかった診療を振り返り励まし合った日々は、かけがえのない思い出です。仲間が存在があったからこそ、困難な場面も前向きに乗り越えることができました。

さらに、看護師さんや薬剤師さん、臨床検査技師さんをはじめとするコメディカルの方々が、知識や技術だけではなく、患者さんへの接し方まで丁寧に教えてくださいました。多職種で支え合う医療の現場で、人とのつながりの大切さを実感しました。

4月からは自治医科大学消化器内科に入局いたします。これまでの2年間で培った基礎と挑戦する姿勢を胸に、さらに専門性を高め、将来は新小山市市民病院にまた戻って来られるよう研鑽を積みしたいと思います。

結びになりますが、新小山市市民病院に関係する全ての方々に感謝申し上げます。

2年間ありがとうございました。（高久）





----- RRS チーム 活動報告！ -----

... 院内急変対応シュミレーション訓練を行いました。 ...



院内迅速対応（Rapid Response System）チームの取り組みについて、紹介します。

当院は、昨年度から RRS（Rapid Response System）チームを結成し、院内迅速対応システムを導入しています。院内迅速対応システムとは、患者さんが急変する前にその徴候を察知し、対応する介入手段のことです。



RRS チームは、早期介入する日々の活動に加え、活動を院内スタッフへ周知しながら 1 人でも多くの予後の改善が出来るよう取り組んでおります。



研修の一環として、昨年 12 月に院内急変対応シュミレーション訓練を行いました。

対象は一年目の看護師と当院の初期臨床研修医です。5 人 1 組のチームを作り、院内心停止となった患者さんへのチームとしての連携を取る訓練です。

まだ経験の浅いスタッフに対して、座学だけではなく、実際に急変した患者さんにどのようにチームワークを発揮するかを具体的に体験してもらいました。



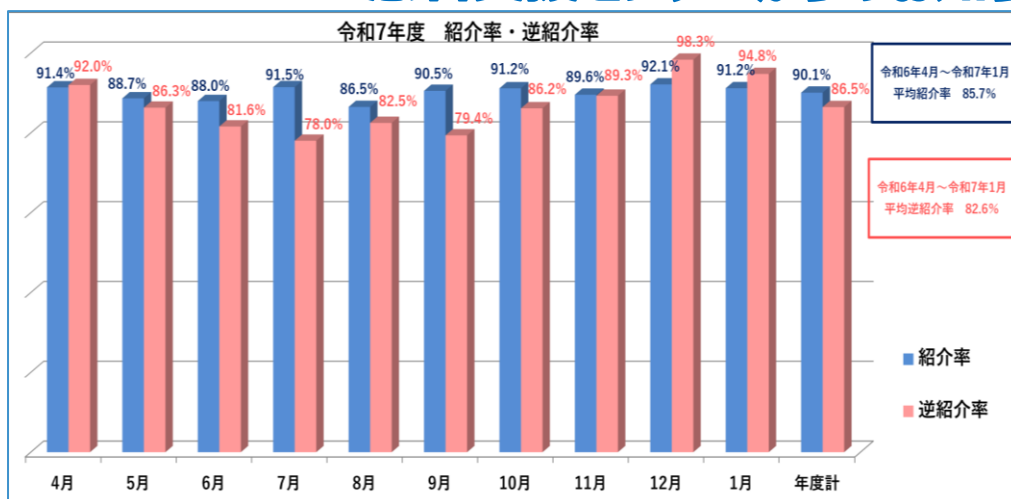
当直医師への報告、心臓マッサージ、気管内挿管の手順、電気的除細動の準備、記録の書き方など初めてのことで戸惑う看護師、医師もおりましたが、皆真剣に取り組み、充実した訓練となりました。



これからも、1 人でも多くの患者さんの急な状態変化を未然に防ぎ、より良い医療を提供できるよう、我々はこのような活動を続けてまいりますので、今後ともよろしくお願いします。



患者支援センターからのお知らせ



いつも当院運営にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

令和7年4月～令和8年1月は、前年度比で紹介患者数 150 人増、逆紹介患者数 99 人増でした。

引き続きよろしくお願いいたします。



地域完結型医療・連携の会 WEB ライブセミナー

地域完結型医療・連携の会にご参加いただきありがとうございます。今年度から「地域完結型医療・連携の会の録画配信」を開始しました。配信視聴をご希望の方は、医療連携室へ電話（0285-36-0252）もしくはメール（メールアドレス renkei@hospital.oyama.tochigi.jp）へご連絡をお願いいたします。

次回の「第59回地域完結型医療・連携の会 WEB ライブセミナー」は、3/12（木）に開催します。今後も、より満足いただけるセミナーになるよう努めてまいりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。



・日時 1月8日(木) 19:15～

・座長 大谷副院長

・症例報告者、症例

循環器内科 木下医師 SCAD(特発性冠動脈解離)の一例

呼吸器内科 斎藤医師 胸膜炎を合併した ANCA 関連血管炎の一例

腎臓内科 橋本医師 ネフローゼ症候群を呈し、巣状分節性糸球体硬化症 (FSGS) と IgA 腎症の鑑別を要した一例

・参加者 63名(院外 30名、院内 33名)

R8年度 地域完結型医療・連携の会 WEB ライブセミナー予定 (第2木曜日開催になります)

	日 程	症例報告
第59回	令和8年 3月12日(木)	消化器内科・外科・小児科
第60回	令和8年 5月14日(木)	整形外科・皮膚科・形成外科
第61回	令和8年 7月 9日(木)	外科・耳鼻咽喉科・呼吸器外科
第62回	令和8年 9月10日(木)	脳神経内科・糖尿病代謝内科・泌尿器科
第63回	令和8年 11月12日(木)	脳神経外科・心臓血管外科・眼科
第64回	令和9年 1月14日(木)	循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科
第65回	令和9年 3月11日(木)	消化器内科・産婦人科・小児科

ポットラック カンファレンス

偶数月、第1火曜日
19:15～ オンライン(Zoom)にて
開催しています。

4/7, 6/2, 8/4,
10/6, 12/1, 2/2



地方独立行政法人 新小山市市民病院

〒323-0827

栃木県小山市大字神鳥谷 2251 番地 1

☎ 0285-36-0200 (代表)

URL <https://tochigi.hospital-shinoyama.jp/>

職員採用サイト <https://recruit.soch.jp/#works>



患者支援センター (受付時間 平日 8:30～17:15) FAX: 0285-36-0352

医療連携室: 0285-36-0252 (緊急の患者紹介・転入相談・その他地域連携に関すること)

予約専用ダイヤル: 0285-36-0254

(予約紹介患者 (泌尿器科・消化器内科・耳鼻咽喉科は除く)・もの忘れ外来の受診予約、上部内視鏡・超音波の検査予約)

※ 紹介患者さんからのご予約は、火・水・木曜日の 午後 2:00～4:30 に受け付けております。

医療相談室: 0285-36-0256

(医療相談・退院調整に関すること・MSW に連絡・その他、外来患者の各種相談に関すること)

メール: renkei@hospital.oyama.tochigi.jp ※メールでも受付しております。

